



2023年5月10日

JACET-Chubu Newsletter

一般社団法人 大学英語教育学会中部支部 No. 50

支部大会へのお誘い

支部長 今井 隆夫
(南山大学)

支部会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。2021年6月より支部長を担当させていただいておりますが、私の任期も2023年6月までの残すところ僅かとなりました。2023年度～2024年度の2年間は新執行部、2023年6月からは新支部長の元で、JACET 中部支部の運営にあたらせていただく所存です。引き続き、どうぞよろしくお願ひ致します。

新執行部のメンバーは、支部長に鎌倉義士先生(愛知大学)、副支部長は、私、今井隆夫(南山大学)が担当させていただきます。事務局幹事に大瀧綾乃先生(静岡大学)、事務局に内田政一先生(桜花学園大学)、事務局(紀要担当)に柴田直哉先生(名古屋外国語大)、会計幹事に梶浦真由美先生(名古屋市立大)の6人体制で臨んでまいりますので、会員の皆様方のご協力を賜りたく存じます。

今年度も6月10日(土曜)にオンラインで支部大会を開催します。大会テーマを「AI時代の英語教育」とし、近年英語教育の分野でも話題になっているAIと英語教育について考える機会になればと思っております。基調講演は柳瀬陽介先生(京都大学)をお迎えし、シンポジウムは、新支部長の鎌倉義士先生(愛知大学)がコーディネーターを務め、講演をいただいた柳瀬陽介先生に加え、松岡弥生子先生(University of the People)、佐藤雄大先生(名古屋外国語大学)をお迎えし、AI時代の英語教育について話し合います。詳細は、HPまたはプログラムをご覧くださいと思います。皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。

目次

2022年度の活動 今井隆夫 1頁

講演会報告1

「Supporting the practical needs of pre-service English teachers in Japan」
Anthony Cripps 氏(南山大学)

大瀧綾乃 1頁

講演会報告2

「教職課程が教えたこと:レシピの習得から料理の習得へ」内田浩樹氏(国際教養大学)

藤原康弘 3頁

講演会報告3

「英語教育と英語史研究の擦り合わせ」
堀田隆一氏(慶應義塾大学)

小宮富子 4頁

研究会報告

授業学研究会

尾関智恵 6頁

事務局より

7頁

講演会報告1

2022年度 第1回定例研究会 講演

「Supporting the practical needs of pre-service English teachers in Japan」

Anthony Cripps (南山大学)

2022年11月27日【Zoom開催】

Anthony Cripps 氏は、2021年度より科研費 基盤研究Bにおいて“Developing a

training and support system for pre-service teachers of English in Japan”の代表を務めておられ、英語科教員の教員養成段階におけるサポートについて研究を行ってこられた。これまでは現職教員に対するサポートも行ってこられたが、教員養成段階でのサポートの重要性に気づかれご尽力されてきた。

Cripps 氏は教員養成段階の問題点として、特に教員養成段階でのサポート体制の欠如を指摘された。教員免許取得のためには教育実習が必須であるが、中学校、高等学校における教育実習の2~3週間（取得免許状の種類による）では、十分な実習期間とは言えないだろう。Cripps 氏は自身の教育実習での経験と比べると、日本の教員養成は実際に現場で教える経験が少ないことを指摘した。

教員養成段階の学生はどのようなスキルが必要と感ずるのかと学生に質問したところ、自分自身の英語力や批判的思考力、生徒を観察する力、生徒個々に対応する力、肯定的な態度、コミュニケーションスキル、柔軟性、ICT活用に関する知識、生徒と良い関係を構築するスキル等、実に多様な回答が返ってきたという。本講演のオーディエンスにも Cripps 氏にご質問されたが、回答は実に多様であった（スピーキングスキル、学習者のモチベーションを上げるスキル、クラスルームマネジメントスキル等）。

Cripps 氏は他の教員も招聘し、教員養成

段階での学生へのサポート体制を強化して、上記のような学生が伸ばしたいスキルを向上できるように、ワークショップを企画・提供してきた。本講演ではワークショップの内容を紹介いただき、受講した学生の感想を聴くことができた。また、実際に学生によるゲームを使った文法指導場面を動画で共有くださった。学生が楽しそうに教え、学び合う姿が印象的であった。

更に Cripps 氏は、英語科教員養成段階での問題点についての学生の意見を共有くださった。そこでは例えば、教員実習期間が短すぎることや、模擬授業を行う機会が十分でないこと、授業計画について深い学びが必要であること、指導法に関する授業がさらに必要であること等が挙げられた。更に、学生が今後受けてみたいサポート内容としては、指導法・ICT 活用法に関する知識は勿論であるが、学習者のスピーキングスキルをどのように改善するか、授業でのスピーキング活動、プレゼンテーション活動をどうデザインするか、学習者のモチベーションをどのように向上させるか等が挙げられた。教員経験者からの意見としては、授業内でコミュニケーションのできる機会をどのように作りだしていくか、アイスブレイクの方法、新しいユニットの始め方、文法を楽しく教える方法、学習者が積極的に関わることでできる授業の作り方が挙げられた。

上の学生らの意見も踏まえ、今後のワークショップにおいては、実践に焦点を当てた講師

 成美堂 2023 年度 新刊のご案内		〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-22 TEL 03-3291-2261 / FAX 03-3293-5490
<p>Global Perspectives Listening & Speaking Book 1 2,750 円(税込)</p> <p>Global Perspectives Listening & Speaking Book 2 2,750 円(税込)</p> <p>Let's Read Aloud & Learn English for Science 2,750 円(税込)</p> <p>Our Science 2,530 円(税込)</p> <p>Trend Scope 2,640 円(税込)</p> <p>Global Business Case Studies 2,640 円(税込)</p> <p>CBS NewsBreak 6 2,860 円(税込)</p>	<p>CLIL: Discuss the Changing World 2 2,640 円(税込)</p> <p>A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST Book 2: Intermediate 2,530 円(税込)</p> <p>BEST PRACTICE FOR THE TOEIC® L&R TEST -Advanced- 2,750 円(税込)</p> <p>Meet the World 2023 -English through Newspapers- 2,310 円(税込)</p> <p>Rethinking the World -Dare to Know- 2,200 円(税込)</p> <p>Flow: Reading Without Borders 2,640 円(税込)</p>	<p> SEIBIDO URL: https://www.seibido.co.jp e-mail: seibido@seibido.co.jp</p>

の招聘、micro lessons の実施、授業実践後の振り返り、他大学とのコラボレーションを行うことを提案くださった。このように Cripps 氏は英語科教員へのサポートシステムの構築を考案されており、このようなサポートは教員養成段階では勿論のこと、新人の教員や経験を重ねた教員にも広く必要であると述べられた。

報告者も教育学部にて英語科の教員養成を行っているが、担当授業以外の場で学生へのサポートができていのかどうかを振り返る良い機会となった。Cripps 氏が実践されてきたワークショップを通じた教員志望者へのサポートは、授業以外の環境の中で、英語科教員志望者が必要とする内容を提供できる素晴らしい取り組みである。授業内だけでなく、教員養成課程での学び全般において学生を「サポートする」という考え方を取り入れ、英語科教員志望者、そして英語科教員の普段の実践に寄り添うことのできる体制が重要であることを学んだ。

大瀧綾乃(静岡大学)

講演会報告 2

2022 年度第 1 回定例研究会 講演

「教職課程が教えたいこと:

レシピの習得から料理の習得へ」

内田浩樹(国際教養大学)

2022 年 11 月 27 日【Zoom 開催】

本講演は「教職課程が教えたいこと:レシピ

の習得から料理の習得へ」と題してオンラインで行われた。先の Anthony Cripps (南山大学) の教員養成に焦点を当てた講演の後に行われたため、より一層学びの深いものになった。本講演で、まず内田氏は教職課程や教員研修で生徒や参加者は授業の個々のテクニック、すなわち個別の「レシピ」を知りたがる傾向にあることを指摘された。ご指摘のとおりで教育実習生は個別の活動や指導テクニックをパッチワークのように繋ぎ合わせるが多い。その全体像をとらえる「料理」のビジョンがないからである。

それでは「料理」を習得させるために、何を教職課程で教えるべきか。氏は「授業はこうしなさい」という「テクニック」ではなく、授業を考える上での「基準」、生徒の立場にたって何が難しいか、生徒はどうやったら興味を持つか、その「視点」を体得させるべきと講演の最後に結論づけた。

その結論に導いていく上で、まず「人はなぜ学ぶのか?」という根源的な問いを投げかける。内田氏は①必要だから、②楽しいからの 2 つで説明できる、とあえてシンプルな答えを述べる。人間、必要なことは必ず学び、身に付ける。中高 6 年間やっても英語が身につかない、それは英語教員のせいだ、と言われるが、そもそも英語は生きていく上で必要性はさほど高くない。その現実と直面し、英語教員は学びを楽しくするしかない、と述べる。

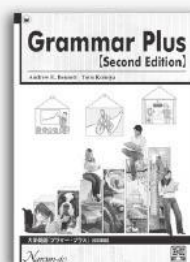
そして次に「どういうときに楽しいの?」とい

南雲堂 2023 年度 新刊ご案内

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 36-1
TEL03-3268-2311 / FAX03-3269-2486

Grammar Plus 【Second Edition】 2,860 円
Travel English in Action 2,200 円
Life Topics: Changing Views 2,640 円
What's That You Say? 2,640 円
Reading for a Bright Future 2,640 円
Let's Find a Solution! 2,200 円
Thinking about Human Life and Society 2,530 円
What Do You Think? 2,420 円
Answers to Everyday Questions 3 (Intermediate) 2,200 円
CLIL in English 2,310 円
Alive and Active 2,200 円
Forward Mode 2,640 円
A Shorter Course in
English for Business Meetings: Presentation 990 円

A Shorter Course in
English for Business Meetings: Discussion 990 円
An Introduction to Sports Science in English 2,200 円
英文法ビフォー&アフター (改訂新版) 2,310 円
*価格は全て税込価格です。



南雲堂 URL: <https://www.nanun-do.co.jp/>
E-mail: nanundo@post.email.ne.jp

う問いを投げける。氏は「努力が報われるとき、成功体験を得るとき」と述べる。そして、その状況のたとえとして、日頃の授業に「宝くじを買う」（自分でこうではないかと考える）場面があり、「ワクワクしながら当選番号を見に行く」（自分の努力の成果を確かめる）仕組みがあることが重要と主張する。

氏の講演の骨子は上記と思われるが、他にもさりげなく目的、根拠をふまえた指導テクニックの紹介や現在の英語教育や教員養成の問題意識なども共有され、大変、インフォーマティブなご講演だった。なにより氏の講演自体が「宝くじを買う」（自分でこうではないかと考える）場面が多く設けられていることで、オーディエンスも自然に学びに向かったであろう。本講演は「教職課程が教えたこと」と題しているが、教育に関わるもの、すべてが意識しておくべき内容をお話いただいたと思う。「教育に関わるもの」とは、幼、小、中、高、大の学校種、国数英などの教科、学校教育、私教育、家庭教育の種別に関わらず、すべてをカバーする意味で述べている。つまり、本講演で内田氏は、英語教育や英語の教職課程を事例にしながら、「教育」の根本を伝えていらっしやった。報告者は後進ながら中高の教育現場を経て、現在、大学で教員養成に従事するものの一人である。上記の「教育」の在り方を再認識するとともに、氏のような先達と直接懇親会などでお話できる機会が来ればと願った。

藤原康弘（名城大学）

講演会報告 3

2022 年度 第 2 回定例研究会 講演
「英語教育と英語史研究の擦り合わせ」
堀田隆一（慶應義塾大学）

2023 年 3 月 11 日 [zoom 開催]

これまで必ずしも密接ではなかった英語教育と英語史研究との関係を、今後いかに擦り合わせていくべきかというテーマについて、本講演では理論と実践の両面からの現代的で本質的な提案がなされた。講師の堀田隆一氏は英語史の研究者および英語教育者として、英語教育における英語史研究の現代的意義を学生・教員・一般社会に伝える「伝道師」のような役割を果たしておられると言えるのかもしれない。

英語史なんて古英語や中世英語を扱う時代遅れの黴臭い学問ではないのかという学生達の先入観や消極姿勢に対し、氏は英語史が英語の見方を 180°変えてくれるものであること、世界史などの他教科との関係を持ちうること、英語学習者の素朴な疑問に答えてくれるものであること、現代英語を深く理解することに繋がるものであること、を指摘して具体的な教育成果に繋いでおられる。

日本の英語教育と英語史研究を繋ぐという点では、2019 年に発表された「教職コアカリキュラム」の中に英語史が位置づけられたことが追い風となっていると氏は指摘する。英語教育の 4 分野「英語コミュニケーション、英語学、



Activator Next

大学生の自信を促す英語コミュニケーション

塩澤 正 / Adam Martinelli 著

大人気の Activator シリーズ最新刊！
多彩なアクティビティ（ロールプレイや対話活動、ディスカッション）
を通して、大学生必須の会話力をグレードアップ

¥1,900 (税込 ¥2,090) B5判 120 pp. 全 15 章 ISBN978-4-7647-4178-2

K
KINSEIDO

金星堂

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-21
電話 03-3263-3828 FAX 03-3263-0716
text@kinsei-do.co.jp http://www.kinsei-do.co.jp

英語文学、異文化理解」の一つである「英語学」の中に「音声」「文法」とともに「英語の歴史の変遷」が明記されたことにより、英語教育と英語の歴史社会的側面を扱う英語史との現代的接点が明示されたが、実際の英語教育現場では、まだまだ英語史の意義や役割が十分には理解されておらず、教職課程での扱いも周延的で有機的ではなく、英語史を指導できる教員数も不足しているという。

そういう中で英語教育・英語学・英語史の相互理解のために今後取るべき対策として氏が提案しているのは、英語史を通して①学習者のニーズとゴールを押さえて素朴な疑問から始めて言語そのものへの好奇心を養うこと。②英語の語学的知識・文学・文化・歴史に広く浅く関わることにより英語教員の引き出しを増やすこと。③修士課程での英語教員養成に英語史の角度からの音声学・統語論・社会言語学などの概論を取り入れること、である。

また英語教育現場において英語史を活用する方法として氏は3つの学習レベルを提案している。第一は intra-disciplinary なレベルであり、語源を用いた語彙学習、つづりと発音の関係、文法変化などの指導が含まれる。第二は inter-disciplinary なレベルであり、英語史・英語教育・英語学との協力や、世界史・日本語・他の外国語などの他教科との連動を視野に入れた学習である。第三は extra-disciplinary なレベルであり、言語に限らず物事の通時的な見方を養うことや、現代世界における言語の変化・多様性・国籍・民族・性・宗教などを包摂するより広い視点からの学習が挙げられている。

英語教育と英語学・英語史が接近する上でのもう一つの追い風として氏が挙げたのは、英語研究における学界潮流の変化である。ここ100年の英語研究では共時態が重視され通時態は軽視される傾向にあったが、昨今は言語変化に関するコーパス研究の発展などで通時態研究への揺り戻しが見られ、一方、英語史の側でも最近では現代英語への関心が高ま

ってきており、「現在を知るための歴史」を扱う研究が時流になってきたとのことである。

英語研究の潮流とそれに対する英語史研究のスタンスについて堀田氏は次のようにまとめている。①英語研究の世界ではかつての伝統的・形式的領域の重視（音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論）から、最近では機能的・社会的領域の重視（語用論、社会言語学、認知言語学）へと変化しつつあるが、英語史は「理論ニュートラル」な学問であり記述をベースに特定の理論に偏らない姿勢をもつ。②英語史はミクロとマクロ、internal（文法・綴りなど）と external（なぜ英語はここまで影響力をもつようになってきたのか、など）の両方の視点を持つ。③英語史は「規範性」と「多様性」の両方を意識しており、英米標準英語信仰からの解放を前提としつつも、「標準英語」の学習を尊重し、同時に多様な *Englishes* を尊重するバランスのとれた英語観に立つ。また、④様々な言語の歴史を遡り、オルターナティブ・ヒストリーに注目する多言語・多方言を尊重するスタンスを持つ、との説明であった。

講演の後半では、理論編に続く実践編として、英語史研究と英語教育を繋ぐために氏自身が日常的に取り組んでおられる実践活動の概要が紹介された。大学での英語教育活動のほか、ブログ（「英語史ブログ」）やYouTube（「英語史・言語学チャンネル」）ラ

NEW

英語
ライティングの
指導

基礎から
エッセイライティングへの
ステップ

山下美朋 編著
河野 円・長倉 若 峰松愛子
山岡憲史 山中 司 著

明日からの授業が楽になる！
英語教師必読の一冊

山下美朋 [編著]
河野 円 長倉 若 峰松愛子
山岡憲史 山中 司 [著]

A5判並製 244ページ
定価 2,750円(税込)



〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-2-22
TEL 03-3405-4511
<https://www.sanshusha.co.jp>

 三修社

ジオ放送（「英語の語源が身に付くラジオ」）を通じた継続的な啓発活動、大学院やゼミを通じた発信活動、学会の開催や英語史イベントの開催などがありその充実度と発信力の高さは圧巻である。英語史の魅力とその現代的意義を伝える「伝道師」の姿を見る思いであった。

講演の冒頭では *English* という単語が生まれた歴史的過程から、その発音や接尾辞に関する素朴な疑問点が解明されるという事例の紹介があり、講演の結びでは、*Englises* という複数形が使われつつある歴史社会的な理由の説明がなされたが、これは氏が提唱する英語学習の三つのレベル（① intra-disciplinary ② inter-disciplinary ③ extra-disciplinary）を見事に例示するものであると同時に、*English (Englises)* という基本単語に含まれる歴史性や現代性、identity や政治力との関わり、学界の潮流との関係を英語史的視点を通していかに抽出しているかを示す秀逸な事例となっていた。

小宮富子（岡崎女子短期大学）

研究会報告

授業学研究会

Developmental Education

Chubu Chapter

本研究会は、日頃の授業を認知科学的・社会文化的アプローチで分析し、学習者・教授・教員をダイナミックなシステムとして研究しています。また関東支部、関西支部の「授業学研究会」とも共同して全国的に授業学を推進しています。

今年度の研究会で取り上げた「数理・データサイエンス・AI 時代における問題解決プロセスを踏まえた多言語学習の検討」は、背景と問題提起、そして着手しはじめた授業実践研究を紹介しました。コロナ禍の影響により、学習に ICT を活用する機会が急速に増えた

現在、収束後に先祖返りするか、あらたな手法を取り入れて刷新していくか、どの研究領域もその選択に迫られている状態であると考えます。つまり学びの革新的な道具として AI・データサイエンスとの付き合い方を真剣に考える時期が来たと考えます。新しい現象を単に脅威として遠ざけるのではなく、よく検討し適用させていく過程が進化的に人を賢くしてきたことから、現在の流れは我々人類がより賢くなるチャンスといえます。

認知科学の分野では、「人が物事を学習し、熟達していく過程とメカニズム」について情報理論をベースに解明していくことを目的としています。見るのが難しい頭の中で起こっている高次認知処理を取り出す手段として、他者との話し合いなどのやり取りをともなう学習を授業設計等でわざわざ作り、その観察をもとに成果を上げてきました。今日までも、これが授業学研究の大柱となっています。

しかし、授業学研究では「個人の内省的な学び」をどのように捉えるかが未だに課題です。ICT を活用した学習も元々は個人がどのように学びを進めたのかをログを追うことで解明しようとしてきました。しかし、言語化して理路整然とする以前の知識構造を捉えることは困難なものです。この課題に AI・データサイエンスによる研究手法は大きく貢献できるかもしれないと現在期待されています。つまり、世界中の言語化された大量の人類の知識（いわゆるビッグデータ）が AI によって特徴を文化差やバイアスなしに統合的に使えるようになった（例えば ChatGPT）ことから、言語からどのように知識が形作られるのかといったシミュレーションと現実世界での比較による検討ができるようになったためです。このような大規模言語モデル（LLM: Large Language Model）は、個人の学習のメカニズムを厳密に再現しているわけではありませんが、言語処理タスクのパフォーマンスを見る限りは、人類が「賢さ」として捉えてきた概念を人間以外の知識体系を用いて説明させることができるよう

になったわけです。プリミティブな学習のメカニズムを追うことが、「文化差」や「言語の違い」の影響も浮き彫りにしてくれるかもしれません。

新たな手法も慎重に取り入れつつ「人の賢さ」について真摯に検討していくことが大事だと思います。

尾関智恵(愛知工科大学)

掲示板

『JACET 中部支部紀要』第 21 号への掲載論文の投稿(学術論文、研究ノート、実践報告、書評)を募集します。奮ってご応募ください。

締切: 2023 年 9 月 10 日
刊行予定: 2023 年 12 月
掲載料: 刷り上がり 1 ページにつき、
1,000 円
問合せ: JACET 中部支部事務局
(紀要担当: 柴田直哉)

投稿方法等の詳細については中部支部ホームページでご確認ください。

中部支部紀要編集委員会

事務局より

◆ 2023 年度支部大会のお知らせ

第 38 回中部支部大会を 2023 年 6 月 10 日に開催いたします。研究発表、基調講演、シンポジウムを予定しております。

中部支部大会テーマ:「AI 時代の英語教育」

基調講演: 柳瀬陽介(京都大学)

シンポジウム:

パネリスト 柳瀬陽介(京都大学)

佐藤雄大(名古屋外国語大学)

松岡弥生子(University of the People)

コーディネーター 鎌倉義士(愛知大学)

なお、第 1 回支部総会も同日開催いたします。支部大会に関する情報は、JACET 中部支部 HP をご覧ください。

◆ 2023 年度講演会・定例研究会のお知らせ

2023 年第 1 回定例研究会・中部支部講演会は 2023 年 12 月 3 日(日)に、第 2 回定例研究会を 2024 年 3 月 2 日(土)に開催を予定しております。詳細は JACET 中部支部ホームページに掲載予定です。

◆ 2023 年度 JACET 国際大会のご案内

第 62 回国際大会は 2023 年 8 月 29 日(火)~31 日(木)に明治大学で開催されます。大会テーマ

「言語教育における連携の再構築と発展」
“Reframing Collaboration in Language Education and Beyond”
JACET 大会ホームページをご覧ください。

◆ 新入会員のご紹介

2023 年 1 月から 2023 年 5 月 11 日までの中部支部所属新入会員は以下の方々です。(敬称略、入会順)

ラングリー パトリーク(名古屋外国語大学)
奥田 由美子(名古屋大学大学院 人文学研究科(大学院生))
久米 啓介(名古屋大学(非常勤))
宮腰 宏美(常葉大学)
古泉 隆(名古屋大学)

◆ 2023 年度中部支部役員(敬称略)

顧問: 倉橋洋子(東海学園大学名誉教授)
吉川寛(中京大学)

理事・支部長: 鎌倉義士(愛知大学)

副支部長: 今井隆夫(南山大学)

事務局幹事: 大瀧綾乃(静岡大学)

幹事:

会計担当: 梶浦真由美(名古屋市立大学)

事務局補佐: 内田政一(桜花学園大学)

紀要担当: 柴田直哉(名古屋外国語大学)

支部研究企画委員 (50 音順)

石川有香 (名古屋工業大学)、今井隆夫 (南山大学)、内田政一 (桜花学園大学)、江口朗子 (立命館大学)、大石晴美 (岐阜聖徳学園大学)、大瀧綾乃 (静岡大学)、大森裕實 (愛知県立大学)、岡戸浩子 (名城大学)、梶浦真由美 (名古屋市立大学)、鎌倉義士 (愛知大学)、木村友保 (名古屋外国語大名譽教授)、倉橋洋子 (東海学園大名譽教授)、小宮富子 (岡崎女子短期大学)、佐藤雄大 (名古屋外国語大学)、塩澤正 (中部大学)、柴田直哉 (名古屋外国語大学)、下内 充 (中部学院大学)、白畑知彦 (静岡大学)、杉浦正利 (名古屋大学)、鈴木達也 (南山大学)、中山麻実 (岐阜医療科学大学)、藤田 賢 (愛知学院大学)、藤原康弘 (名城大学)、藤村敬次 (愛知工業大学)、三上仁志 (中部大学)、吉川 寛 (中京大学)

支部紀要編集委員会

委員長: 石川有香

委員: 大石晴美、岡戸浩子、下内 充、白畑知彦、杉浦正利、藤原康弘、三上仁志

◆ 住所変更届提出のお願い

支部会員みなさまに、紀要や Newsletter などの郵便物をお届けできない事例が増えていきます。お手数ですが、転居の際には、JACET 本部事務局と中部支部事務局の両方に、住所変更届をご提出ください。詳細は、以下のサイトをご覧ください。

・JACET 中部支部ホームページ

<http://www.jacet-chubu.org/>

◆ ニュースレターは会員の皆様のフォーラムです。ご意見、ご要望等は事務局までメールでお送りください。投稿も歓迎いたします。なお、メール件名は【JACET 中部】とお書き添えください。

◆ JACET 中部支部事務局

〒 422-8529

静岡県静岡市駿河区大谷 836

静岡大学教育学部 大瀧綾乃研究室内

E-mail: otaki.ayano@shizuoka.ac.jp

JACET 中部支部ホームページ

<http://www.jacet-chubu.org/>

JACET-Chubu Newsletter No. 50

2023年5月10日発行

発行者: 一般社団法人 大学英語教育学会
中部支部 (代表) 今井隆夫
編集者: 内田政一、大瀧綾乃、梶浦真由美